



## 1. 北海道紋別市

- ・視察者 井上聖子、平澤牧子
- ・視察場所 紋別市役所
- ・視察日時 令和6年5月22日（水） 午後2時から午後4時
- ・視察項目 スポーツ合宿誘致事業について
- ・説明員 紋別市教育委員会 スポーツ振興課課長 益田 好仁 氏  
紋別市教育委員会 スポーツ振興支援員 佐賀 孝一 氏
- ・視察目的

市が保有するスポーツ施設の有効利用、スポーツに関わる優秀なチームを誘致することによる地域活性化、誘致団体とのスポーツ教室を通じて児童生徒の技術力向上など、スポーツに関わる市民のモチベーション向上に繋がる取組を視察する。

### ・要旨(報告事項)

スポーツ合宿誘致事業は、平成2年度から実施している。助成に関わる要綱は、平成11年4月27日に制定し、現在に至る。助成の交付対象となる合宿は、

1. 合宿が市内の施設を利用して実施されること
2. 合宿期間中、市内の宿泊施設に3泊以上宿泊すること
3. 合宿に参加するものが10名以上であること

の要件をすべて満たすものとする。

### 助成内容

1. 宿泊助成  
ア 全日本 1人1泊 2,500円  
イ その他(小中高・大学・一般) 1人1泊 1,000円

### 2. 交通費助成

#### ア 航空運賃助成

紋別発着の航空機(紋別⇄羽田)を利用した場合は、1人につき片道利用は15,000円、往復利用は20,000円を助成する。

#### イ その他の助成

関東圏以外の団体には、航空機助成の他に東京までの交通費として片道運賃の1/2以内(10,000円限度)が加算される。

### 3. 市内移動経費助成

合宿中の市内移動に使用する車輛の使用料は、紋別市が支払う。

### 4. 講習会開催助成

合宿中に市民対象の講習会を開催した場合30,000円を助成する。

(小・中・高校向けスポーツ教室など)

### 5. 助成範囲

助成額の上限は1団体につき助成総額1,200,000円以内。

### 6. 支援団体助成

合宿を支援する市内の団体に、経費の一部を助成する。

団体1名に対して3,000円とし、支援団体総額100,000円を限度とする。

スポーツ合宿誘致事業に関わる本年度の年間予算は、39,369千円を計上している。項目としては、団体補助金29,846千円、人件費5,273千円が主なもの。

事業の効果として、駅伝などでテレビに写る選手たちが早朝に街をジョギングする姿に接することで、子どもたちにとって地元への愛着につながり、スポーツに関わる市民へのモチベーション向上につながっている。費用対効果については、コロナ期間を除き、年間30団体前後、約600人の受け入れを行っており、延べ人数にして約5,000人となる。このことによる経済波及額は約1億円と推測している。また、本事業は平成11年に開港した新紋別空港の東京直行便の搭乗率向上の一助をなしており、直行便の安定的運行により、周辺自治体1市3町1村で運営している広域紋別病院における、関東方面からの医療関係者招致にも寄与している。

### ・視察結果・所感

紋別市は8月の平均気温でも20度前後と過ごしやすい気温であり、他の道内市町村に比べ降雪量が少ないという特徴がある。平成29年6月には「紋別避暑地化」を宣言し、冷涼

な気候、自然災害の少なさ、東京直行便などの特性を最大限に活かし、誘客に取り組んでいる。令和6年4月に整備された紋別市運動公園自由広場は、市民のスポーツ機会の拡充と健康増進を目的に、道内初の「スポーツ専用人口芝フィールド」で、平滑性・クッション性が高く、ひざなど身体への負担を和らげる効果が期待できる施設である。

スポーツ合宿誘致事業が地域の子どもたちやスポーツに関わる市民への意欲向上に大変効果を発揮していると感じた。また、東京直行便が遠紋地域の医療、観光、産業活動にとって無くてはならない重要なものであると再認識した。

## 2. 北海道北見市

- ・視察者 井上聖子、斎藤雅男、平澤牧子
- ・視察場所 北見市役所
- ・視察日時 令和6年5月23日（木） 午前10時から正午
- ・視察項目 書かないワンストップ窓口について
- ・説明員 北見市市民環境部 窓口課課長 高久 直美 氏
- ・視察目的

市民課窓口で何かの書類や手続きをしようとする、たくさんの書類を書かされたり、時間がかかったり、担当窓口を回されたりと、面倒なことがありがちである。「書かないワンストップ窓口」とはどのような取組なのか、当市でも導入できないものか、先進的な取組を見せてもらう。

- ・要旨(報告事項)

北見市は、人口約11万人、面積は全国4番目、道内1番の広さで、令和5年度日本DX賞優秀賞受賞している。

### 北見市の窓口サービス改善の取組について

#### 1. 北見市の取り組みポリシー

書かない、やさしい、窓口を回らない

利便性の向上と職員の業務の効率化、これを目標に(原動力として)取り組んできた。

- #### 2. 職員提案募集及び新人職員の窓口体験調査(2012年)により、利用者目線について考えた

3. 予算をかけずにできることから実施

カラーボードを利用して手続き分野ごとの案内表示板を職員が手作業で作成。

4. 証明申請書の統合化⇒書く回数と窓口を回る回数が減る

(各種申請書の保存年限が異なるが、長い期限に合わせれば解決)

「手続きチェックシート」の作成

- ・申請書様式の標準化(市役所の様々な窓口業務の様式を共通的なデザイン・レイアウトにする)

- ・本人確認の統一的な実施と認印の省略可

まずはアナログから見直す。

5. 窓口(対面)受付で ICT を活かす

- ・窓口支援システムの独自開発

- ・窓口は1か所コンパクトに⇒ライフイベントワンストップが絶大な威力

(関連する手続きをまとめて受付する)

- ・RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)による自動処理の導入

(窓口支援システムで受付した申請データを使って、業務システムの定型的な入力操作を自動的に行うことができる)

6. ワンストップ対象範囲の整理

- ・証明⇒住民票、戸籍、税証明など

- ・ライフイベント⇒受付代行

- ・個別手続き⇒国保など

7~8割を窓口課で処理できる

7. おくやみワンストップサービス

- ・死亡に関する手続きの流れや必要な手続きを案内

- ・手続きのまとめ受付(ワンストップ)

- ・書かない窓口

8. 今、自治体に求められていること

- ・ IT ツールを使いながら、仕事の手順ややり方を変える創意工夫→業務改革
- ・ システムの導入が目的ではない。
- ・ どのような窓口にしたいのか、何を解決したいのか、本来の目的に立ち返ってからシステム化を。(つかいにくい・やりにくいを改善する)

今まで面倒だった窓口の手続きも業務改革(BPR)と、必要に応じてデジタルの力を取り入れることで「誰一人取り残されない」社会を実現できる。

⇒電子申請も窓口業務改革もどちらも重要

- ・ 視察結果・所感

まず、市民課窓口に記載台が無いことが新鮮だった。色とりどりの各種申請用紙も無い。書く手間が無く総合受付で何をしに来たのか申告すればいいのだ。窓口では、担当職員が丁寧に聞き取りをしてくれる。職員の「住民目線でのこんな窓口にしたい」が実現しているのだと感じた。自治体の DX 化が求められているが、システム先行ではない、アナログ部分の見直しの先に必要なシステムの導入が求められているのだと感じた。市民の利便性向上、職員の業務効率化を目指して窓口業務の改善に取り組んでほしい。

### 3. 北海道釧路市役所

- ・ 視 察 者 井上聖子、斎藤雅男、平澤牧子
- ・ 視察場所 釧路市役所
- ・ 視察日時 令和6年5月24日(金) 午後1時30分から午後3時30分
- ・ 視察項目 釧路における公有資産マネジメントの推進について
- ・ 説 明 員 釧路市財政部市有財産対策室 市有財産対策係 主査 本間勇氣 氏

- ・ 視察目的

人口減少が著しく高齢化率も上がってきている中、公共施設の維持管理、増改築の費用がどの自治体も嵩んできている。市民の利便性の向上とマネジメントについて先進的な取り組みを学ぶ。

- ・ 要旨(報告事項)

日本海溝沖の巨大地震が発生した場合、大津波の影響で、現在の想定最大死者数 20 万人

と言われていると発表があった。マネジメントでは想定していなかった避難所などの建設が入ってきたとのことで優先順位が急変することもあるという。また複合化することにより、施設が大型化し維持費がかさみかつ、技術の向上や IT の発展による生活様式の変化なども考慮するとそもそも必要のない施設というものも出てきてしまう可能性があり、大きいが故に使わなくなる部屋などができた場合の管理が大変になるという。今後変化の起こり得る業に関しては、現状を維持し、世の中の動向を見守るということも大切であると学ぶ。

### 【釧路市の概要】

- ・平成 17 年 10 月 11 日に釧路市、阿寒町、音別町が合併して新生『釧路市』が誕生した。
- ・面積: 1,363.29 km<sup>2</sup> {東松山 65.35 km<sup>2</sup>} 約 20 倍
- ・人口: 159,073 人 {東松山 92,369 人} 約 1.7 倍
- ・特色 1: 7～9 月の最高気温の平均が 22 度であることから夏には長期滞在地として選ばれている。
- ・特色 2: 阿寒摩周国立公園と釧路湿原国立公園の二つの国立公園がある自然豊かな地域。
- ・特色 3: 農業、林業、水産業の一次産業とそれに関連する食品加工業、製紙、石炭鉱業そして観光業を柱として発展し、物流を支える「港」「空港」「鉄道」「道路」が整備されてきた。そして、「高速道路網」が釧路に延長されたことで、物流、観光の伸張がもたらす波及効果に期待されている。

### 【公共施設更新問題】

- ・人口減少や人口構成の変化
  - ・経済成長、人口増加に合わせて整備した公共施設の老朽化
  - ・改修、更新費用の増大と集中
- ⇒全国的な問題

### 【公有資産マネジメント】

- (1) 建物状況、利用状況、運用状況の把握
- (2) 総合的、戦略的、経済的な公共施設の見直し
  - ・施設の再編、集約化、多機能化

- ・計画的な補修、修正、更新(建て替え)と費用の平準化
  - ・管理運営方法の改善、民間施設の活用や民間化 など
- ⇒最小経費で、最大の効果を

### 【基本的な4つの視点】

#### 1 公共施設の効果的運用

- ・人口削減とニーズの変化に対応した公共施設の集約化と縮減
- ・民間活力の導入(民営化や民間主体の事業推進可能性検討)

#### 2 公共施設等の利用活用

- ・既存建物や余剰スペースの活用
- ・休廃止施設の処分

#### 3 公共施設の長寿命化

- ・計画的な補修、改修、更新による費用の軽減と平準化

#### 4 管理運営費の効率化

- ・最適な管理と受益者負担の適正化

### 【過去に行った対策の実績】

#### 《集約化・複合化事業》

釧路市緑ヶ丘・貝塚ふれあいセンター

概要：放課後児童クラブを実施する児童センターと地域住民の集会施設を1つの建物に集約した施設

釧路市共栄ふれあいセンター

概要：放課後児童クラブを実施する児童センターと地域住民の集会施設を1つの建物に集約した施設

#### 《民間施設の有効活用》

民間が所有する建物を借り上げ中央図書館と施設を設置。3階から7階の5フロアが図書館(文学館含む)

## 【公共施設等の維持管理、更新などに係る経費の見込み】

釧路市が保有する公共施設などを現状の保有量のまま維持する前提で、各個別施設計画などに基づき、長寿命化対策等を実施した場合の効果額は、今後 32 年間で 4,813.9 億円の効果が得られる見込み。

## 【保全の基本方針】

### 1 目標使用年数の設定

- ・SRC 造・RC 造 70 年以上
- ・S 造・CB 造 60 年以上
- ・W 造 40 年以上

### 2 長寿命化と改修・更新のあり方の見直し

これまで

- ・対処療法による修繕工事の繰り返し
- ・機能の老朽化・陳腐化による建て替え

↓

これから

- ・築 20 年 中規模改修による機能回復
- ・築 35 年 大規模改修による機能向上
- ・築 55 年 中規模改修による機能回復
- ・築 70 年 更新（建て替え）

## 【改善方針 7 つ】

### 1 総量の圧縮（施設=建物重視から機能重視へ）

- ・有効活用、集約化、多機能化、新規整備の抑制
- (1) 庁舎など、行政窓口機能の見直し
- ・単独施設ではなく、周辺公共施設等との集約化、多機能化
- (2) 重複する集会、ホール機能の集約化、多機能化
- (3) 児童福祉関連施設の集約化、多機能化

(4) 新規整備の抑制

(5) 老朽化、低利用施設の単純廃止

(6) 学校の多機能化の検討

- ・長寿命化、更新時における多機能化の検討

## 2 管理運営の見直し

(1) 施設所管課における情報の共有化

(2) 運営の見直し

- ・業務委託、指定管理等
- ・民間施設の活用、民営化

(3) 施設管理運営の一元化と施設の集約化

- ・近隣施設を同じ管理者にするか、同種施設を同じ管理者にするか。
- ・文化財等保存施設、ミュージアムなど

(4) 複合施設における管理運営の見直し

## 3 近隣自治体と連携

近隣自治体との連携、相互利用

- ・スポーツ施設等

## 4 施設の長寿命化と維持管理コストの縮減

総合的視点での保全計画策定による優先順位付け

- ・整備レベルの設定(建て替え、大規模改修)
- ・維持、管理レベルの設定
- ・長寿命化(目標、使用年数の設定など)

## 5 財政制約の設定

(1) 直近5年(計画策定時)の平均、1年あたり57.8億円(計画策定時)

(2) 今後の人口削減に応じて約25%減の40億円

## 6 継続的、総合的なマネジメント

(1) データの一元管理

(2) 対象外、施設を含む総合的なマネジメントの検討

## 7 受益者負担の適正化

## 適正な受益者負担(使用料等)の見直し検討

### 【削減目標】

#### 1 削減目標面積

- (1) 今後の 10 年、その次の 10 年、その後の 20 年と段階的に設定
- (2) 基本的に、人口削減率に即して縮減する
- (3) 老朽化し、利用率の低い施設機能の類似する施設などは集約化、機能移転による多機能化を図る。
- (4) 10 年後以降におけるマネジメント対象外、施設の適正化を検討

#### 2 保全計画による施設の長寿命化

- (1) 整備レベルの設定
- (2) 維持、補修に係る修繕費の再設定
- (3) 長寿命化
  - ・ 築 30 年で大規模修繕 ⇒ 築 35 年に
  - ・ 築 60 年で更新(建て替え) ⇒ 築 70 年に

#### ・ 視察結果、所感

無駄を省く工夫に感銘を受けた。実際建物を建てる時に、基本設計と自主設計の 2 種類の設計費用がかかるが、基本設計を同じものにするにより、1 棟目約 3,300 万円(基本設計+自主設計)で建てたのに対し、2 棟目は 1,500 万円(自主設計のみ)とコストが下がっている。新しいことにチャレンジするのはとても大変な業務だ。積極的に改善を繰り返し行っている点は勉強になった。